

(5) 地域コミュニティについて

西宮市は、街のイメージに関する各種の調査において、「住んでみたい街」、「住んでよかった街」のランキングで常に上位を占めています。その要因のひとつとして考えられる、地域との付き合いや地域コミュニティでの活動についての調査を行い、今後のまちづくりの基礎的な資料として役立てていきたいと考えています。

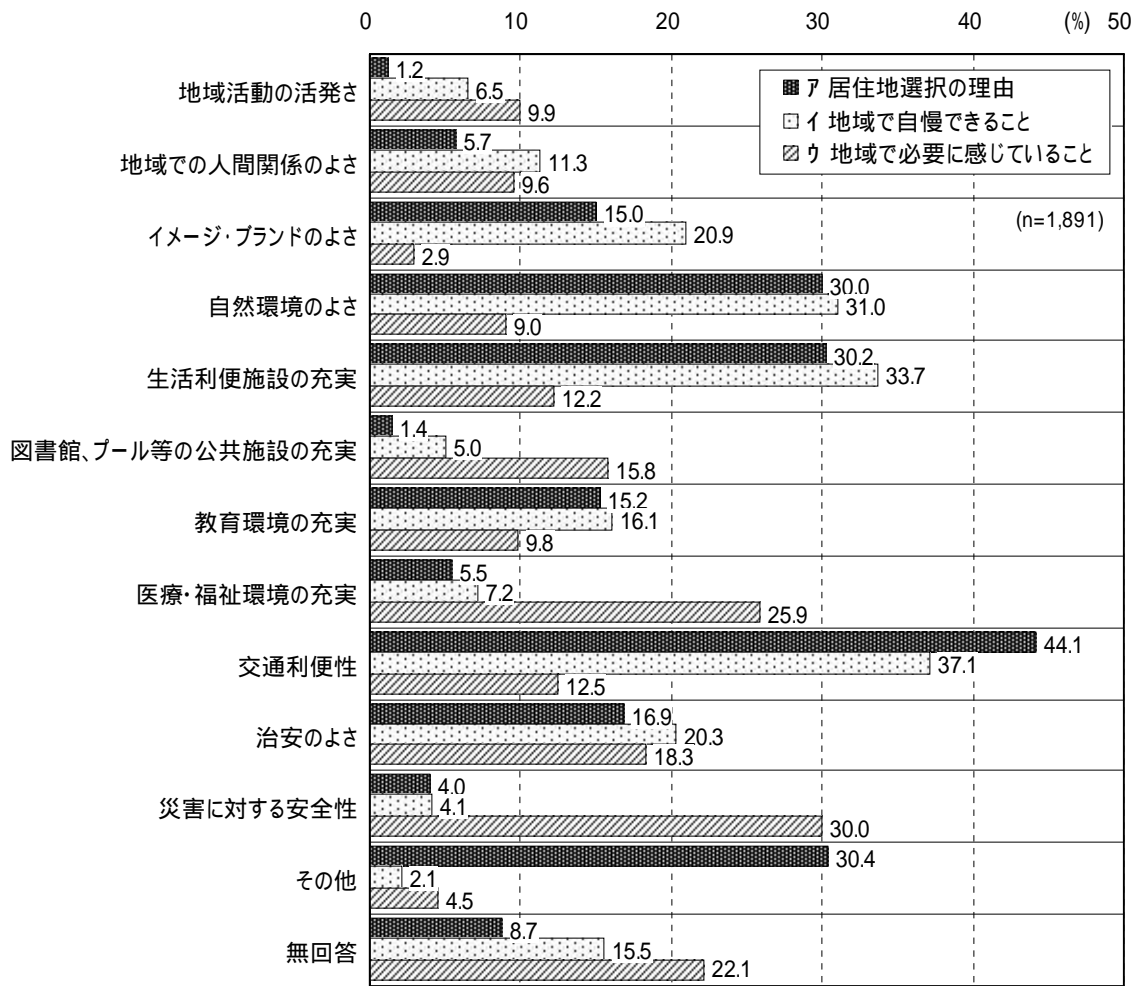
居住地の選択理由と評価

問25 どのような理由で、現在の居住地を選択されましたか。また、その地域で自慢できること・必要に感じていることは何ですか。主なものを3つまで選んで番号をご記入ください。

居住地を選ぶ要素は、交通・生活利便性と自然環境。求められるのは安全と医療・福祉。

- ・「その他」や無回答を除くと、ア．居住地選択の理由として多いものは、「交通利便性」(44.1%)、「生活利便施設の充実」(30.2%)、「自然環境のよさ」(30.0%)などである。
- ・イ．地域で自慢できることとしては「交通利便性」(37.1%)、「生活利便施設の充実」(33.7%)、「自然環境のよさ」(31.0%)が上位の3項目であり、ア．居住地選択の理由と一致する。
- ・ウ．地域で必要に感じていることでは、第1位が「災害に対する安全性」(30.0%)、第2位が「医療・福祉環境の充実」(25.9%)、第3位が「治安のよさ」(18.3%)、第4位が「図書館、プール等の公共施設の充実」(15.8%)となっており、いずれもアやイではあがってこなかった項目である。

居住地選択の理由と評価



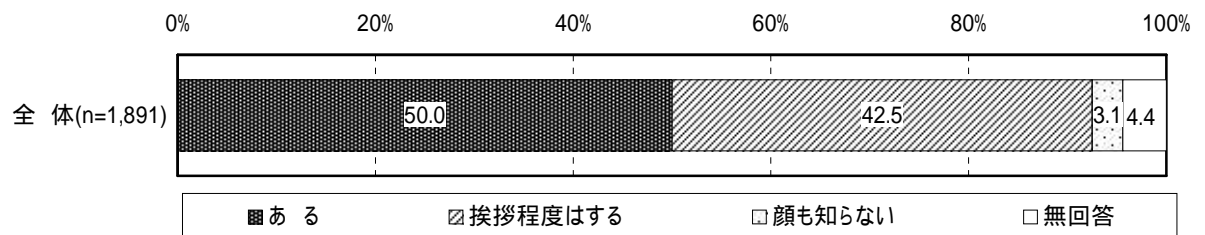
近所との付き合い

問26 ご近所の方とお付き合いはありますか。(1つ選んで)

半数が近所付き合いをしている。

- ・近所付き合いが「ある」とするのは、ちょうど半数の50.0%であり、約4割が「挨拶程度はする」となる。「顔も知らない」は3.1%である。

近所との付き合い

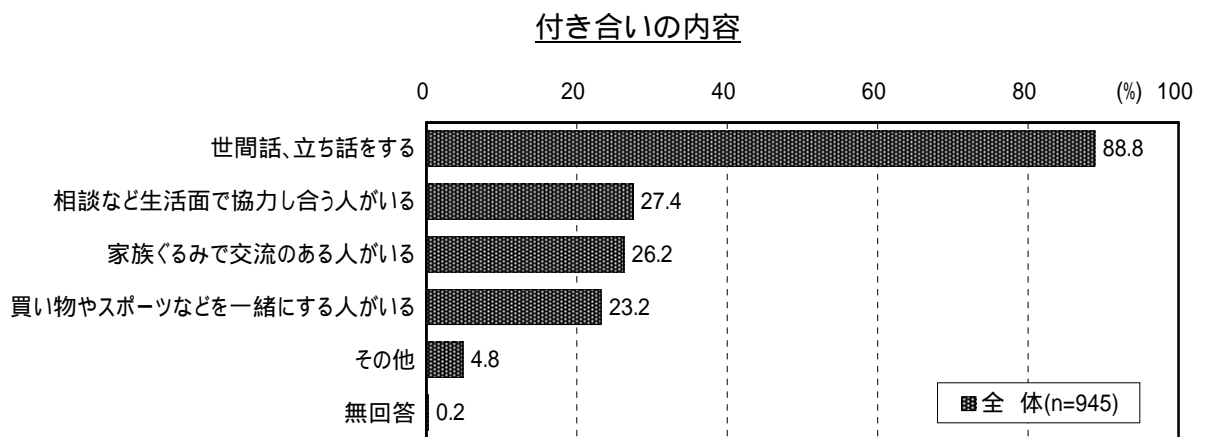


付き合いの内容

問27 どのようなお付き合いをされていますか。(あてはまるものをすべて選んで)

9割が「世間話、立ち話」をする。

- ・ 88.8%が「世間話、立ち話をする」としてしており、これに「物の貸し借りや相談など生活面で協力し合う人がある」(27.4%)、「家族ぐるみで交流のある人がある」(26.2%)、「買い物や趣味、スポーツなどを一緒にする人がある」(23.2%)が続くが、これらの間に大きな差はない。



コミュニティ活動への参加頻度

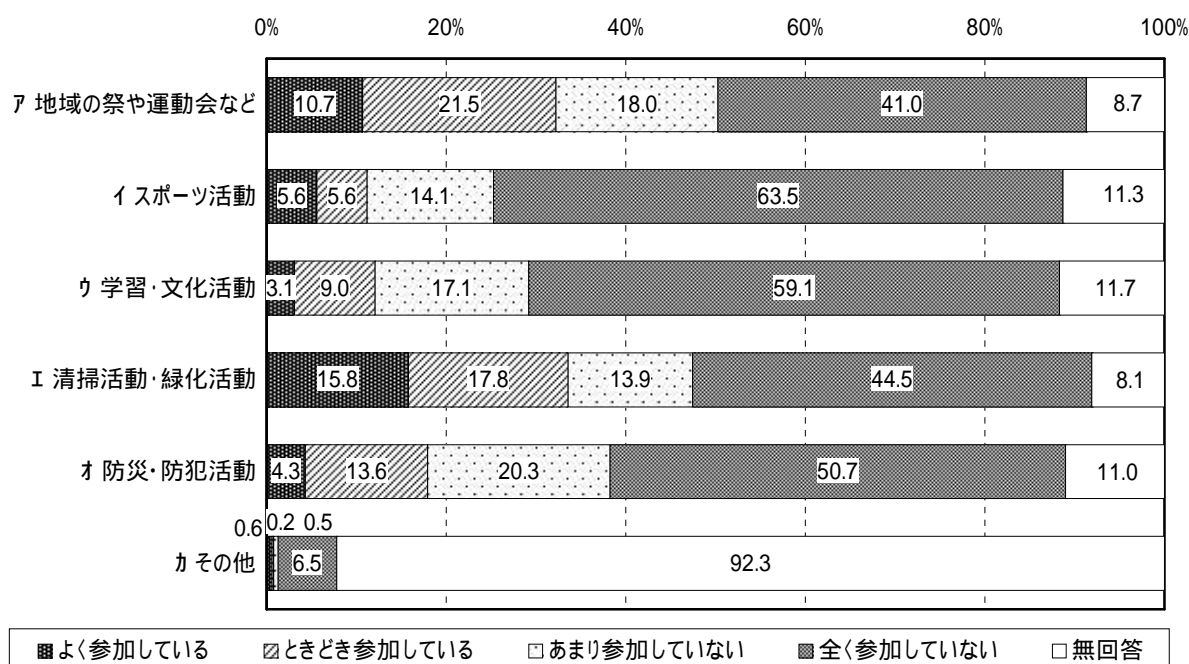
問28

地域コミュニティ（自治会等）での活動への参加頻度について、以下のそれぞれにあてはまるものにをつけてください。
 また、「全く参加していない」を選んだ方は、その理由を下記より1つ選んで番号をご記入ください。

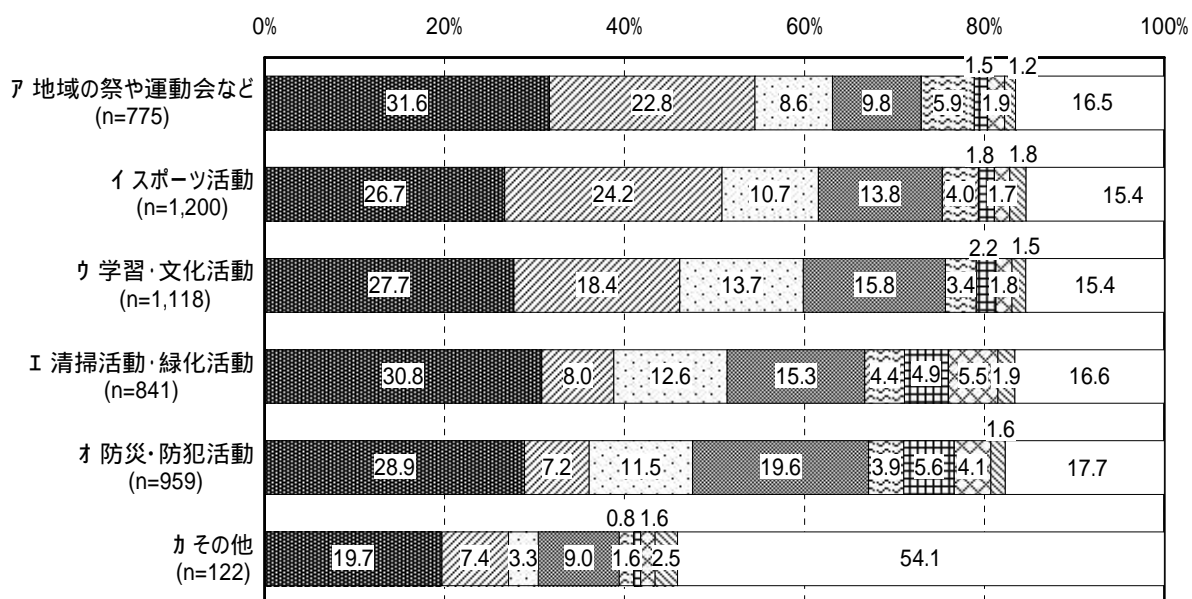
清掃活動や地域の催しなどには1 / 3が参加している。

- ・「よく参加している」「ときどき参加している」の合計値では、清掃活動・緑化活動（33.6%）、地域の祭や運動会など（32.2%）が高く、いずれも3割強である。これに防災・防犯活動（17.9%）が続くが「よく参加している」の割合はかなり低くなる。
- ・「全く参加していない」の割合は活動によって4割から6割程度であるが、その理由はいずれも「仕事、家事などで忙しいから」が首位になっており、これに「興味がないから」や「時間が合わないから」「どのような活動があるかわからないから」が続く。

コミュニティ活動への参加頻度



全く参加していない理由



- 仕事、家事などで忙しいから
- 時間が合わないから
- ▣ 知り合いがいない、一緒に参加してくれる人がいないから
- ▤ 引き続き参加を求められそうだから
- 無回答
- ▨ 興味がないから
- ▧ どのような活動があるかわからないから
- ▩ 参加の方法がわからないから
- 後から入りにくいから

施策に向けての一言 <地域コミュニティについて>

地域コミュニティに対する住民の評価や信頼は、その街のブランド形成につながるという意味において重要である。西宮市は「住んでみたい街」、「住んでよかった街」についての各種のランキングで常に上位を占めているが、その地域コミュニティについて住民はどのように感じているだろうか。

問25は居住地選択の理由、地域で自慢できること、必要に感じていることについて問うている。居住地選択の理由で最も高い値を示しているのは「交通利便性」(44.1%)、次いで「生活利便施設の充実」(30.2%)、「自然環境の良さ」(30.0%)である。地域で自慢できることもこれとほぼ同様であるが、加えて「イメージ・ブランドのよさ」(20.9%)、「治安のよさ」(20.3%)なども認められる。地域で必要に感じていることとしては、「災害に対する安全性」(30.0%)、「医療・福祉環境の充実」(25.9%)、「治安のよさ」(18.3%)、「図書館、プール等の公共施設の充実」(15.8%)などが相対的に高い割合を示している。

コミュニティにおける居心地は人間関係に支えられるところも大きい。問26はご近所との交流について尋ねている。「ある」が50%、「挨拶程度はする」が42.5%なので、9割以上が濃淡はあれ日常的な交流を近所の人と持っていることになる。そのつきあいの内容を尋ねた問27を見ると「世間話、立ち話をする」という回答が88.8%ある。これよりも深いかわりとなる「相談など生活面で協力し合う人がいる」は27.4%、「家族ぐるみで交流のある人がいる」は26.2%、「買い物やスポーツなどを一緒にする人がいる」が23.2%といずれも4分の1程度の値を示している。

地域コミュニティの活動への参加頻度について尋ねた問28によると、「清掃活動・緑化活動」(33.6%)、「地域の祭りや運動会など」(32.2%)などが相対的に高い参加率を示している。もっともどの項目でも「全く参加していない」という回答が最も多い。全く参加していない理由についてみると、「仕事、家事などで忙しいから」「興味がないから」などが高い値を示しているが、一方で「どのような活動があるかわからないから」という層がどの項目についても1割前後存在する。この層にうまく働きかければ参加は増えるかもしれない。

このような地域コミュニティ活動への参加は「ソーシャル・キャピタル(社会関係資本、人間関係資本とも呼ばれる)」の豊かさに関連する。一般に豊かなソーシャル・キャピタルは行政のパフォーマンスに貢献すると言われている。西宮市における豊かな人間関係の涵養(かんよう)は、自治体としての価値をさらに高めるものとなると期待される。

(関西学院大学 山田真裕)

